

## 第2回 日野市幼児教育・保育の在り方検討委員会 —議事録—

### 1 日時場所等

- (1) 日 時 令和5年5月25日(木)午後6時30分～午後8時30分
- (2) 場 所 日野市役所本庁舎5階505会議室
- (3) 出席委員 齋藤政子委員、小宮広子委員、臼井映子委員、佐藤由美子委員、金濱尚子委員、北里浩一委員、石田健二郎委員、豊田隆茂委員
- (4) 欠席委員 なし
- (5) 事務局 教育長：堀川拓郎、教育部：村田幹生部長  
教育部学校課：成澤綾子課長、石原收課長補佐、西山拓人主任  
石田幼児教育・保育アドバイザー  
発達・教育支援センター発達・教育支援課：萩原美和子課長、榎本恭子課長補佐  
子ども部保育課：佐々木滋課長、飯野成路係長、小野早苗巡回支援指導員
- (6) 傍聴者 1名

### 2 次第

—開会—

- (1) 委員長あいさつ
- (2) 事務局からの説明事項
- (3) 基調講演
- (4) 検討事項：テーマ「幼児教育・保育と小学校教育の円滑な接続に関すること」  
①現状と課題・目指す姿について  
②課題解決のための具体的な方策について
- (5) その他

—閉会—

### 3 配布資料

- 資料1 委員一覧(事務局分部のみ変更あり)
- 資料2 令和5年度 幼保小連携教育推進委員会 年間計画・グループ分け一覧
- 資料3 基調講演資料

### 4 内容

#### (1) 委員長挨拶

■(傍聴の希望に対して、委員全員の異議がなかったため、傍聴者1名が入室した。)

#### 【委員長】

■検討委員会の開始にあたり、事務局より説明があればお願いいたします。

### **【事務局】**

■本日の会議につきましては、日野市幼児教育・保育の在り方検討委員会設置要綱第6条第2項に基づきまして、委員の半数以上の方がご出席されておりますので、成立要件を満たしておりますことをご報告いたします。

### **【委員長】**

- ありがとうございます。それでは次第に基づきまして、本日も「幼児教育・保育の在り方について」検討を進めてまいりたいと思います。
- 本日の進め方についてですが、この検討委員会は「幼保小連携の更なる推進と多様性に応じた学びの充実を目的として、日野市らしい幼児教育・保育の在り方を検討する」ために設置されております。
- 第1回目は主に、この検討委員会の所掌事項である幼保小の接続や、特別な配慮を要する子どもへの支援に関することについて、各委員よりご発言いただきました。
- 本日はこのうち幼保小の接続について、課題認識などあれば引き続きご発言いただき、その後、それぞれの課題を解決するための具体的な方策について検討を進めていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

～異議なし～

### **【委員長】**

- ありがとうございます。
- それでは、前回から一定期間が経過しましたので、事務局より前回の会議の振り返りも含めて、本日の配付資料に基づいて説明があればお願いいたします。

## **(2) 事務局からの説明事項**

### **【事務局】**

- 事務局でございます。着座にて失礼いたします。
- 配布しました資料のご説明をさせていただきます。
- まず資料の1です。「日野市幼児教育・保育の在り方検討委員会委員名簿」でございます。こちらの委員名簿につきましては、前回の会議でもお配りしたところではございますけれども、今年4月に日野市で組織改正や人事異動がございましたことによりまして事務局の体制に変更がありましたので、その部分を修正したものとなっております。主な変更点といたしましては、組織改正により学校課から学務課に変わったことと、人事異動によりまして教育部は学務課長、子ども部は保育課の担当が変更となっております。
- 続きまして資料の2でございます。「令和5年度幼保小連携教育推進委員会年間計画等」についてでございます。  
2月の17日に開催されました第1回委員会の振り返りといたしましては、本検討委員会の所掌事項でございます、幼児教育・保育と小学校教育の円滑な接続に関することや、特別な配慮を要する子どもなどへの支援に関すること、その他日野市らしい幼児教育・保育の実現に向けた方策に関することについて、委員の皆様のご自己紹介を交えながら、まずは皆様それぞれの立場から日々感じている議題や思いについてご発言をいただいたところでございます。  
その中で既存の取り組みとして事例紹介されましたのが、こちらの資料でございます、「幼保小連携

教育推進委員会」でございまして、こちらは令和5年度の内容を記載したものとなっております。日野市の小学校・幼稚園・保育園の連携の歴史が古く、様々な場面での連携がこれまでに図られてきました。

こちらにございます、「幼保小連携教育推進委員会」は、平成22年に、これまでの幼小連携の枠組みに保育園が加わる形で立ち上がったものとなっております。

この委員会では、市内の教員や保育士が事業観察や協議を通しまして、小学校のスタートカリキュラムの実態や、各園・各校の実践について共通理解を図り、架け橋期の教育を充実できるようにすることを目的としているものでございます。

こちらにございますように今年度4月に、市内全域を対象とした取り組みといたしまして、日野第一小学校を会場に、公立・私立問わず市内の小学校や幼稚園教諭・保育士が多数集まり、新1年生の授業参観やグループワーク、そして本委員会の委員長でいらっしゃる齋藤教授のご講義など、幼保小連携の理解を深めたところでございます。

こちらの資料の裏面をご覧ください。こちらの表にございます通り、今後は市内を4つのブロックに分けて、各学校を単位としての授業参観や協議など、子どもが直接的に関わりある園や学校同士で、さらに理解を深めていくところでございます。

また、前回の議論の中で、幼保小連携についての話題の中で、日野市の小学校がそれぞれ何園と交流しているのかというご質問を事務局へいただいたところでございます。

各小学校から提出されます教育課程の資料を確認しましたところ、市内全部で17校あるんですけども、平均しますと1校当たり3園程度の園と連携を図っている状況でございますことをここでご報告させていただきます。

前回の委員会では、こういった連携に関する効果であったり、一方で、調整にかかる学校側の負担など、委員の方からご発言をいただいているところでございます。

この「幼保小連携教育推進委員会」は、今年度の4月に立ち上げました教育委員会と子ども部を横断する「幼児教育・保育連携推進プロジェクトチーム」の事業の一環でもあり、チームのメンバーである幼児教育・保育アドバイザーや教育指導課の指導主事などが事務局として関わっているものとなっております。

■続きまして資料の3をご覧ください。こちらは本日この後予定しております、基調講演の資料となっております。

本日の基調講演の講師の石田アドバイザーについて、ここでご紹介をさせていただきたいと思っております。今ご説明させていただきました、「幼児教育・保育連携推進プロジェクトチーム」の立ち上げに合わせて、市内の小学校や幼稚園、保育園を巡回支援する幼児教育・保育アドバイザーとして、今年度の4月に石田アドバイザーが就任いたしました。

石田アドバイザーは教育公務員といたしまして、小学校学級担任24年、副校長6年、校長13年、日野市内の小学校においても20年の長きにわたり、子どもたちへの教育に貢献いただきました。

また、先ほど資料の2でご説明しました「幼保小連携教育推進委員会」の中心的な役割として10年間、小学校に進学した子どもたちが学校生活を円滑にスタートできるよう、市内の小学校や幼稚園、保育園に対する支援を行って参りました。

またその実績から、令和3年度に文部科学省が実施しました幼児教育理解推進事業中央協議会シンポジウムにて、スタートカリキュラムの実践を発表されるなど、その活動は市内にとどまらず、全国に及んでいる状況でございます。

今後、石田アドバイザーはこれらの経験を生かしまして、「幼児教育・保育連携推進プロジェクトチーム」の一員として、公立・私立を問わず、小学校・幼稚園・保育園に対しまして、幅広く巡回支援などを実施するものでございます。

既に4月中に全ての小学校を巡回しておりまして、5月からは幼稚園や保育園の巡回を順次実施しているところがございます。巡回支援を通じまして、小学校・幼稚園・保育園から聞き取りをしました課題や、本検討委員会で議論された課題解決のための方策をプロジェクトチームの一員として、検討だけでなく実働する部分も充実してまいります。

本日は委員の皆様、本日の検討テーマである幼児教育・保育と小学校教育の円滑な接続に関することについて議論をしていただくため、基調講演として石田アドバイザーから、国の動向や日野市の現状についてお話いただければと存じます。

■事務局からは以上でございます。

### 【委員長】

■ありがとうございました。

■ただいま事務局からご紹介がありました通り、石田幼児教育・保育アドバイザーはこれまで、日野市内の小学校長として幼保小接続のためにご尽力されてきました。前回資料としてお配りした日野市の幼保小連携についてまとめた「あそびっこまなびっこ」の編集にも携わっていただきました。また日野市内の活動だけにとどまらず、文部科学省の令和3年度幼児教育理解推進事業に参加されるなど、国の政策にも通じております。

■事務局からもありました通り、本日の議論を充実させるためにも、石田幼児教育・保育アドバイザーから本日の検討テーマである、幼児教育・保育と小学校教育の円滑な接続に関することについて、ご講演いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

～異議なし～

### 【委員長】

■ありがとうございます。

■それでは、石田幼児教育・保育アドバイザーよろしくお願いいたします。

### (3) 基調講演（幼児教育・保育アドバイザーより）

■皆さん、改めましてこんばんは。

■ただいまご紹介いただきました、幼児教育・保育アドバイザーの石田といいます。ここにいらっしゃる皆さん、市民の代表としてこられる2人を除いて、今まで一緒に仕事をさせていただいたり、それから齋藤先生にはご指導いただいたりしていますので、その内容をまとめて発表する・お話するっていうことについては、多少緊張はしているんですけども、限られた時間ですので、資料を活用しながら進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

■それでは、幼保小連携教育のさらなる推進についてということでお話をさせていただきます。

■紙の資料としては、先ほど説明させていただきました。お手元にあると思っておりますけれども、冊子の方はまたぜひご覧いただき、特に第2章の部分については、日野市が取り組んできたことをまとめてありますので読んでいただければと思います。

■それから、平成30年の3月1日に発行された「東京都教育会」の資料につきましては、3歳から5歳までの教育内容が共通になったことです。どの就学前施設、教育・保育施設の出身であろうと、子どもたちは同じ内容の教育を受けて小学校に入学するということです。管轄が違うための様々な課題を乗り越え、整合性がとられたことは画期的なことなのですよ、という文章です。これは校長会で配った資料で、校長が私達の幼児教育についてどれだけ理解しているのか、保育園の内容と幼稚園の内容と

全く違うものであったり、かつてはお散歩とお昼寝だけしている、教育なんかしてないよみたいなことを平気で言う校長がいたという時代の中で、ぜひ幼稚園も保育園も一緒なんだよっていうことを知って欲しくてこの資料を配布しました。

- 現在の「幼保小連携推進委員会」の方でもこの話をするところあるんですけども、現場の教員が、小学校の教員が果たしてこれをどれだけ理解しているのかなっていうのも、ちょっと心配なところですよ。大学その他で学んできてはいると思うのですが、幼稚園と保育は別のもので、3歳・4歳・5歳の幼児教育は別のものだと考えていると、「幼保小連携」というのが進まないのだな、原点だなどというふうに考えての資料です。
- あと、日野市は「発信が上手じゃない」と、以前よりずっと言われてきたんですけども、縁あって国の方でも日野市の紹介をすることができました。冊子にもなっていたので、それを印刷したものをお配りしています。教育委員会と小学校、幼稚園、保育園が連携して取り組めたことは、本当に素晴らしいことだな、齋藤先生からもご指導いただきましたけれども、素晴らしいことだなというふうに思っているところです。
- ということで、幼保小連携ということは国でも散々進めなさいということと言われてきたんですけども、幼保小連携の成果と課題ということで、今まで取り組んできたことを国レベルで挙げられています。
- これについては、日野市でも同じようなことを感じているところです。これを1つ1つ解決していくために、どういうふうに取り組んでいこうかな、それを実践していこうかな、という基本になっているところです。
- その中で、幼稚園・保育園のアプローチカリキュラムと呼ばれるものと、小学校のスタートカリキュラムと呼ばれるものが、それぞれバラバラ。学校ごとに作っているのよ。この両方からの橋が真ん中でピタッと合わない、架け橋とならないよ、という指摘がある。その中で、この年長5歳児と小学校1年生、この2年間を「架け橋期」と呼んで、そこの教育を充実していこう、ということが新たに言われています。
- ですから、今まで日野市が取り組んできたことが、さらに重点的に取り上げられて、力を入れて取り組んでいくことが国全体としても進めているところです。この国全体が取り組んでいることについて、令和4年度の自治体の取り組みということで申請が上がったものについて審査するよということ、その委員にもさせていただいた。各都道府県、19ほど、全部読ませていただいた中で、日野市と同じようなことをやっていたり、日野市のちょっと前のことをやったりして、令和4年度取り組んだということで、また日野市は進んだことをやっているんだなっていうふうには実感しているところです。
- その架け橋期の教育の充実について、という、大きな資料の中に赤く書いたところなんですけども、幼児教育と小学校教育っていうのは、小学校と中学校とか、中学校と高校とかの接続と違って、全く別物の教育が行われていたものを接続しなければいけないということで、様々な違いがあって、円滑な接続を図ることは難しいですよ、というふうに言われています。
- 先ほど齋藤先生の方から、幼児教育の質の向上というものにとどまらず、小学校との連携の上で優れた実績を作ってきているというふうには評価いただいたんですけども、10年間1つ1つ重ねてきても、なかなかこの様々な違いを共有することができないっていうような現状があります。その違いを少しでもなくすために、「幼保小連携教育推進委員会」で協議を進めてきました。
- 幼稚園・保育園は、環境による教育ですよ。砂場にスコップ置いとけば穴掘るし、砂場にビニール袋を置いとくと水遊びに発展するよ。意図的な環境を整えると、子どもが没頭するよ。というのが幼児教育というふうには言われています。
- 小学校は、逆に、「したくないか」「したいか」は、なかなかわからないんですけど、「教科書」という

ものがある、その内容を言葉で伝える。言葉じゃだめなんだけども、言葉で伝える一斉指導が主になってしまう。そういうところが違いにある。

- 幼稚園・保育園では、子どもが没頭しない場合には環境が何か足りなかったんじゃないかな、この子が没頭するのにはもっと違うものを用意すればよかったんじゃないかな、ということで、次の保育のときには違うものを用意する。

例えば、鉛筆の持ち方やなんかでも、お話聞いた中では、みんな握れないから、鉛筆の持ち方の強制具をつけさせるのではなくて、太さで環境整えてるんですよ。握りづらいときには、太いペンを持たせてあげる。段々細くしていく。それが小学校に入った途端に、みんな同じ鉛筆を持っているというように違いがあると、やっぱり子どもが一番戸惑ってしまうわけです。

- けれども、その中で小学校は、一斉指導の中で、子どもたちがちょっと持ってこないだとか、ちょっと外れちゃったりすると、自分の指導は教科書が元になってるから、自分の指導を振り返るんじゃないかって、子どもに課題があるんじゃないかな、この子は何かおかしいぞ、っていうことで、特別支援かなっていうふうに、「子どものせいにしてしまう」というのがまずは大きな違いなんじゃないかなというふうに思います。

- ですから、そこも連携をとりながら、子どもを同じように見てきて、子どもをそこからもらう小学校が少しずつ変わっていくことによって、幼保小連携というのがさらに進んでいくんじゃないかなと思います。

- かつては、たくさんの子が、1人が指導するので大変だからって言って、これをやってきてくださいね、座らせておいてくださいね、いまだに45分座らせるように3月には頑張ってるんですよって保育園・幼稚園から聞くことがあるんです。だけど、そんなことはしないでたくさんたくさん遊ばせてきてくださいね、小学校だって45分座らせてませんよ、っていうような話をしながら。連携し、やるべきことをきちんとやりながら接続していこう、というふうに、ここを続けてきているところです。

- 幼保で育てた子どもたち、遊びを中心にした学びで10の姿をしっかりと小学校で受け継いで育てていくというような場になりつつあります。3指針にも幼稚園・保育園は小学校教育の先取りをすることではなく、小学校就学前までの幼児にふさわしい教育および保育を行うことが最も肝心なことと書かれてるっていうのは、今後も伝えていきたいなというふうに考えています。

- 「スタートカリキュラム」というようなことで、小学校に入ってきた子どもたちに、色々な教育をするわけです。この「スタートカリキュラム」という言葉が、ここにも書かれているように、平成20年に生活科に出てきた言葉なんです。平成20年ってことはもう15年も経っているわけです。その後あまりにも進んでないということで、さらにパンフレットが各学校で低学年の担任に配布されました。多分、どの学校にも、もうないと思うんですけれども、それが平成27年ですので、もう8年も経っている。なかなか進んでいない中で、「スタートカリキュラム」という括りで、各学校に行き取り組みをしてくださいねと言っています。

- 「スタートカリキュラム」を大きく三つの段階に分けると、昔からやってきた「小学校に入ったらこういうルールで生活するんですよ」と言う「適応指導」をやっていたスタートカリキュラムの時代がありました。

- それから、今度は、安心して学校生活をスタートさせるために、幼稚園・保育園でやってきた遊び、自由遊びを取り入れたスタート。それから時間の流れ、15分単位とか、それから遊べる環境、机や椅子やコーナーを作ったりして、安心して学べる環境を作っていきますよねっていうのがセカンドステージ。多くの小学校は今セカンドステージまで到達しているんじゃないかなと思います。ただ、行ったり来たりですけど、毎年行ったり来たりですけども、そのセカンドステージまでの理解は進んできたかな。

- 3番目として今度は、効果的関連的な指導、あと弾力的な時間割の設定の工夫。10の姿を参考にしな

がら、指導案を考えて授業に生かす、というところが今サードステージとして求められているのかなってところですよ。

- 小学校にこのスタートカリキュラムが定着しないのは、管理職が移動してしまうこと。それから1年生の担任が移動してしまうこと。余所から来て初めてスタートカリキュラムを知りました、という教員もいないわけではないので、同じようなことを繰り返し繰り返し学校の中で伝えられるような体制も作っていかねばいけません。
- 今少しずつですけども。私がいた日野第一小学校の1年生の担任は、着任してからずっと1年の担任で、1年以外やらせてもらえないって文句は言うんですけども、保護者も安心するし、学校の中でも任せられます。この東光寺小学校へ行った1年生の担任も、3年間1年生の担任させてもらっています。多くの学校が1年生の担任を固定することで、スタートカリキュラムが定着したりとか、保護者から安心してもらえるような学校作りに繋がっているのでは。そんな学校経営が管理職の中でできるというか、選択肢として広がっていけばいいなというふうにも思っているところですよ。
- 日野市のこのような取り組みをいろいろなところでお話させていただいた中で、賛同いただけるというか、素晴らしい取り組みですねって言っていただいたことが、長崎県の保育協会からお話がありました。小学校がそうやって幼児教育・保育園を大切にしてくれるのはとても嬉しいことなので、ぜひ長崎に来て話をしてくれと、お話がありました。コロナの関係で急にオンラインって言われちゃって、1年生の教室を映しながら、教育相談室から2時間喋りました。対面じゃなくて残念だなと思ったんですけども、とても多くの保育士が聞いてくれました。小学校がそうやって受け入れてくれるなら安心できるというような話をしていました。ですから、皆さんが小学校の校長会だとか小学校に、こういうことをやっていくんだよ、やってるところがあるんだよっていう話をして、ぜひ進めてくださいって話をしました。
- 今度は、埼玉県のある市の教育委員会から、埼玉県のその市も「スタートカリキュラム」を進めたいんだけど、各学校の先生たちの意識が高めるためにも、ぜひ来てお話をしてください、という依頼がありました。埼玉県に行って、目の前にたくさんの校長先生が座っている中で説明したのですが、保育士協会の時と比べて、聞く気が低い印象を受けました。それもそのはずですよ。冷静になって考えると、肩書があるわけでもない、名も知らぬ校長が前に来て「ああせい、こうせい」と言われても、聞く気は起きないよな、と思いました。東京都でこんなことをやっていますよ、といくら言われても、自分たちの市で取り組んでなければ改善しようとは思わない。逆に、管理職の先生が「やっていこう」と思ってくれたら、きっと変わっていくのだろう。管理職が関心もなく、「いいよもう、うちの学校の子は1年生としてしっかりやっているよ」と考えてしまったら、これ以上は幼保小連携は進んでいかないと思う。幼保小連携となると、4月・5月のことだけではなくて、これから先、日常的な交流がだんだんと増えていくと思います。
- 日野第一小学校では、近隣の保育園に対して、散歩中ぜひ学校の中に寄って行ってください、遊具がありますよ、水道もありますよ、と声かけしています。避難所にさせてください、と言う保育園もあって、避難訓練で学校に来るときもあります。そのほか、公立保育園との取組みですが、学校のプールを公立保育園にも使ってもらおう、ということもありました。このように学校全体で取り組むことが、これからまた少しずつ戻ってきて、子ども達の交流もできるようになるのではないかと、そんなことが進んでほしい、というふう考えているところですよ。
- 先ほど、「幼保小連携教育」の歩みということで、ずっと今一覧表にしてありますけれども、最後の部分に「幼児教育・保育アドバイザーとして」、ということで、ちょっとこんな感じで学校を回りました。
- 4月17日から、1年生の教室に、指導という形じゃなくって見せてくださいね、で一回りしてきました。
- 今度は5月15日から。これも一番最初は日野第一小学校だったんですけども、今度は近隣の学校

の先生たちとか、近隣の幼稚園・保育園の先生たちに参加してね、ということで、授業を見ながら今度は協議会をやって、幼稚園の先生や保育園の先生や担任に意見を聞いて、こういうふうにしましょうねっていうふうに話をしてきました。

■他地区から来て、入学式の次の日の1時間目、どんな授業をやるってすごく悩んだんです。子どもたちも戸惑ってました。先生にもっと早く話聞けばよかったって言ってくれる学校があって嬉しいなあというふうに思いました。

また、「私はもう精一杯やってやっと1ヶ月半で子どもたちは私の言うこと聞くようになりました、これ以上何をすればいいんですか」って、何か喧嘩売られたみたいな感じになっちゃう人もいました。そうすると、これが限界かなとか、子どももかわいそうだな、とか思うんです。けれども、管理職にはちゃんと言ってきたんですけれども、いろんな先生たちが基本的には全員全力でもう力いっぱい頑張っています。

■先生たちも力を抜いて、45分の授業のうち、30分は中身で、15分は間に歌を歌ったり体を動かしたりする時間を用意してあげれば、子どもたちは元気よく頑張れるんじゃないかな、と思います。

先生たちはチャイムで動くことが多いのです。チャイムで動いてしまうと、準備ができている子どもたちはチャイムが鳴るまで待たされちゃうんですね。「先生やろうよ」、「まだチャイムがあと5分たないと鳴らないから待っててね」というふうに先生がチャイムに動かされてしまっている。もう完璧にアウト。

■また、「集中できないよ」ってなってる子が半分ぐらいいて、「あと7分間待って」と言っている場面がある。こんなふうになってる子に対して、「7分頑張れ」って言ったら、今でいう不適切な指導になっちゃうかもしれない、だって、「もうできないよ」って言ってるのに、「7分頑張れ」はやっぱ酷じゃない。その判断を先生がどれだけできるかなっていうのは、これからの学校に求められてるところかなと思います。

■一つ、これは指導案の中にあっただ部分なんですけれども、「10の姿」というのが幼稚園・保育園と小学校教員の間の共通語にしようよと思っています。できるできないじゃなくて、こんな姿になるんですよ、こんな姿を求めて保育してますよ、っていうところで、そうやってくれた子どもたちを1年間の事業ではこんなふうに見つけて行きますよ、っていうのを指導案に入れてもらったのが、これも日野第一小学校の指導教育が作った指導案です。

■こういう形に全ての学校が到達してほしいなというふうに思っています。これがサードステージとして各学校を回りながら、この部分についても指導していきたいなというふうに考えています。

■同じことの繰り返しになって申し訳ないんですけど、1年生、この間も幼稚園に来た子どもに、「学校楽しい？」って聞いたら、「つまんない」って言ったそうです。「なんで？」って言ったら、「やりたいことやれないんだもん」と。

■まさに幼稚園・保育園ではやりたいことをやってきたので、それを知らない、多分知ってると思うんですけど、小学校はやりたいことはやらせなくて、やりたくないことをやらせるのが教育だみたいな考え方になっちゃってる部分もある。

■なので、やりたいことがやれない小学校はつまらない、それからチャイムに縛られちゃう、さっきも言ったように、やる気出てるのに待たされるし、やる気がないのに続けさせられちゃう。そういったシステムに子どもたちは嫌になっちゃう。

■それから簡単すぎることをやらされると嫌になっちゃう。手の上げ方から始まって、避難訓練の仕方もうそう。最初は、まだみんな学校に慣れてないから、お兄さんお姉さんが逃げているのを見ようね、としている。今日事件・事故があったらどうするのか。廊下で待って2年生以上が避難するのを見て、どうしてあのとき避難させなかったのって言ったら、まだ慣れてないから、うちの学校は今までそうしてるから、と。やっぱり教員が、子どもたちは何ができるかできないのかわからないと、つまらな

いことを何回も何回もやらせたり、つまらないことを我慢させてしまう。できることも我慢させてしまう。そういうのは、いけないんじゃないかなと思います。

- それから難し過ぎることを求めても子どもは嫌になっちゃう。45分間じっと座って先生の話聞く子どもを想像して授業をしてるとしたら、やっぱり異常ですよ。6年生だってそんな授業受けられないし、中学生だって無理だと思うんですよ。それは無理なんだよ。
- じゃあどうしようか、っていうことを学校を回りながら、その場にいる幼稚園・保育園の先生からの情報をもらいながら、こんなふうにしてるんですよ、ここで手遊びするといいですよ、そんな情報をもらいながら、1年生の先生が「そうか」って少しずつ考えてくれるようになっていきます。
- 内容が難しすぎるんです。「集中しろ」とかもそうです。例えば、幼稚園・保育園で先生が本読んでくると、子どもたちが椅子から腰浮かせて、体ぐーっと前に来ますよね。それを支援員さんが、とんとん、「姿勢」って声かけちゃったら、夢中になってる子どもがぶつんって切られちゃうわけですよ。それで集中しろなんていうのはやっぱりかわいそうなこと。じゃあ何が簡単で何が難しいか、先生が知るためには、やっぱり保育園・幼稚園に行ってみてこなきゃだめなんです。自分のお子さんを保育園に預けてるお母さん先生も、やっぱり自分のお子さんがどうやって保育園で指導されてるか保育されてるかかわからない。何か知らないけど、保育園に行く間に素晴らしい子どもになって帰ってきたって言うてる先生もいて、すごいなと思ったんですけども。
- 保育園ではどんなふうにしてるんだろうか、幼稚園ではどんなふうにしてるんだろうか、そこをしっかり理解して小学校でスタートしてあげなきゃいけないですよ。そのためには幼保小の連携をしっかりとっていかなくちゃいけないですよ、っていうことを皆さんにまとめてお話できたかなあというふうには思っています。
- 私も、「プロジェクトチーム」の一員として、「幼児教育・保育アドバイザー」という仕事をいただきましたので、チーム全体、また関係する幼稚園・保育園・小学校の先生たちと協力しながら、日野市の日野市らしい幼児教育、それから保育、そして幼保小連携っていうのを進めていきたいなというふうに考えています。
- 言いたいこといっぱいあって、いくらでも喋ってろとか言われたら喋っちゃうところなんですけども、やっぱり限界がありますので、お腹も空いたし眠たいしっていうのが現実だと思いますので、この辺で終わらせていただきます。ありがとうございました。

#### (4) 検討事項：テーマ「幼児教育・保育と小学校教育の円滑な接続に関すること」

##### 【委員長】

- ありがとうございました。
- それでは幼保小の円滑な接続について、ただいまの石田先生の基調講演へのご質問・感想でも結構ですし、これまでに第1回でご発言いただいた内容以内でも結構です。課題と感じられていることでも結構です。皆様各委員からご発言をどうぞよろしくお願いいたします。いかがでしょうか。

##### 【委員】

- 先ほどのお話にも、「幼保小連携」っていうお話をいただいたんですけども、自身の子どもが公立幼稚園を卒園いたしまして、今ちょうど入学後1ヶ月の時期になります。公立幼稚園を卒業した児童の保護者を対象にしてアンケートを行ったんですけども、その内容をここで発表させていただいてもよろしいでしょうか。
- すみません、ちょっと資料がございまして、皆様にはここでちょっとお配りさせていただきます。すみません、少しお時間いただきます。

- 皆様、お手元に資料は届きましたでしょうか。すみません、ちょっと着座にてご報告させていただきます。
- こちら公立幼稚園卒業児童の現状の報告と題させていただきます。
- 本報告の趣旨。本報告は令和5年3月、公立幼稚園を卒園した児童の保護者に対して、幼小の接続についてのアンケートを行いました。小学校入学後1ヶ月の接続期の児童の現状を、幼児教育・保育の在り方検討委員会（以後本委員会とします）に報告することで、議論に役立てたいと考え報告するものであります。
- 次に、本報告の背景として、私の子どもを通わせていた公立幼稚園では、年長児に小学校や、小学生と様々な交流をしてきており、その中には実際の教室での模擬授業や給食体験といった、入学後の学校生活を視野に入れたものがあり、幼保小連携の観点から見て、これは非常に有意義なものであると感じました。現在入学して1ヶ月が経過し、小学校での生活に慣れ始めてきたと思われるこのタイミングでアンケートを取り、本委員会に共有し、今後の幼保小連携を考えていく一助にしたいと考え、実施いたしました。
- 3番のアンケートの方法と内容です。アンケートは令和5年3月に先ほど言いましたけども、公立幼稚園を卒園した児童の保護者を対象に行いました。匿名でWeb上のGoogleフォームで作成したもので行いました。期間は今年の5月の14日から20日、回答数は全12件でした。
- 実際のアンケート内容なんですけども、お配りした資料の1ページ目から3ページ目、資料のページが手書きで恐縮なんですけど、1ページ目から3ページ目が実際に行ったアンケートの内容で、4ページ目以降が回答の内容となっております。
- 各質問に対する回答の考察といたしまして、資料の4ページをお開きいただいて、円グラフがあるページなんですけれども、質問の内容は、子どもが通う小学校についての質問、子どもが通うクラスまたは学年で、「小1プログラム」、「小1の壁」と呼ばれるような問題が起きていると感じるかどうかを教えてくださいという内容です。ここでは「小1プログラム」というのは入学したばかりの1年生が集団行動が取れない、授業中座ってられない、話を聞かないなどの状態が数ヶ月継続するとしております。こちらのアンケート結果については、少し当てはまらないが3件、当てはまらないが3件であり、概ね問題なくクラスが運営されているという意見が多かったです。一方、当てはまるが1件、少し当てはまるも3件ございました。現状全てのクラスに問題がないわけではなく、幼保小連携による円滑な接続が必要であると考えます。
- 次に、資料2番のところ、設問2の内容について。小学校1年生の子どもについての質問です。現在子ども自身が小学校に通うにあたって不安に感じていると思うものについて教えてくださいという内容のアンケートでございませう。こちらの結果が、通学道路または通学中や下校中に関する不安が6件と一番多く、次いで友達に関する不安が5件、授業中や勉強に関する不安が5件と多く回答がありました。休み時間等学校での生活に関する不安と給食に関する不安は3件にとどまり、特にないと回答した家庭も2件ありました。このことから、入学から始まる新たな人間関係や通学、授業など、幼稚園では行ってこなかったことに対して、不安を感じている児童が多いと考えます。入学前や入学後に、これらの不安を軽減できるような取り組みが必要ではないかなと考えております。
- 次に、資料の5ページになるんですけども、こちらが、昨年度公立幼稚園が実際に行っていた小学校および小学生との交流についての質問になります。現在子どもが小学校生活を送る上で、やってよかった活動があったら教えてください。これGoogleフォームの関係上、選択肢が少し後半が切れちゃってるんですけども、こちら資料の2ページ目のところに全て書いてあるものがございませうので、ちょっと見にくくて申し訳ないんですけども、2ページ目の3のところ。ここで補完をしていただくと。こちらが給食体験と実際の教室での授業体験が10件、良かった、とても満足度が高く、その他の活動についても、半数以上の保護者が児童が学校生活を送る上で効果があったのではないかなと回

答しております。

■このことから、次の6ページのところに、実際にどのようなことが良かったのか、というのを具体的に教えてくださいと言って、これだけ記述で回答がございましたので、お時間ある時で結構ですので読んでいただくと幸いです。

■このことから、未就学児、入学前のお子さんが小学校や小学生と交流することは非常に重要であると考えます。特に、実際に学校で行われた活動ってというのは、児童が入学後の生活をイメージすることができるので、入学後の不安を軽減するという点で、すごく効果があった活動であったんじゃないかなと考えております。もちろん全てのお子さんに効果があったというわけじゃなくて、やはりどれもちょっと該当しなかったという回答もございました。

■次に、資料の7ページをお開きください。こちらが子どもの幼稚園から小学校への接続についての質問になります。家庭や幼稚園、小学校で、こうするべきだった、こうしてほしかった、これからこうしてほしいなどありましたら教えてくださいという内容です。

設問4の結果については、入学後1ヶ月が経過した時点で、家庭・幼稚園・小学校の3点から見て、幼小接続についての要望や、改善点を保護者に挙げてもらいました。

家庭での改善点として、身の回りのことなどのしつけの面と、小学校について説明不足だったというような内容が挙げられています。

幼稚園への要望として、希望者以外にも文字の書き取りの練習をやってもらいたいという意見もありました。また、公立幼稚園の活動と環境を評価する声も上がっておりました。

小学校への要望として、持ち物や宿題についての説明があまりにも足りないということと、小学校の保護者会と幼稚園のお迎えの時間がかぶって大変であるというのは、何かそこら辺のタイムスケジュールのあたりがちょっと少し難しいなど挙げている親御さんもいらっしゃいました。

■アンケートの結果では、家庭、幼稚園、小学校、それぞれが要望や改善点を挙げられていました。このことから、円滑な幼小接続には、小学校がよければいいとか、幼稚園が頑張ればいいとか、家庭でもっとしつけるとか、そういうことじゃなくて、この3点がやはり一体となって進めていかなければならないものなんだなというふうに考えております。

■次に資料の7ページの5番のところなんです。設問5にて、保護者から幼小接続について本委員会に伝えたいことを述べてもらいました。内容としましては、公私幼保、どちらにも小学校と交流できる、交流する必要があるという意見や、幼稚園から小学校、また小学校から幼稚園、いつでも顔を出せるような距離感が重要であるというような意見もありました。また、令和8年度に今現在第四幼稚園が閉園予定であることから、子どもの行き場がなくなるかもしれないので早急に議論してほしいという旨の要望も上がっております。

■これまでの考察から、以下のようにまとめます。

■現状、日野市内全ての小学校1年生のクラスが問題がないわけではなく、幼保小が連携することで円滑な接続が必要であるということは、特に争いのない事実だと考えております。

■入学後1ヶ月の時点での児童は、新たな人間関係や、入学前の経験のない授業や通学に不安を感じるケースが多いので、やはり入学前・入学後の細やかなフォローが必要ではないのかなと感じます。

例えば、入学後に、1年生の集団下校の機会を増やしていただくと、1人で下校して不安な児童というのが減りますし、家の近い児童と一緒に帰ることで友達作りにも役に立つのではないのかなというように考えます。また、授業中や勉強についての不安を軽減するために、入学前にやっぱり実際の学校での授業とか、授業を体験するといったような活動とか、家庭での準備というのもやはり重要ではないのかなというふうに考えております。

■入学前の幼稚園と小学校の交流では、幼児小接続に関しどのような形であれ交流することに効果があるというふうに感じている保護者が多かったんですけども、先ほども述べましたが、実際に小学校

で行われた給食体験・授業体験は、やはり効果があるというふうに感じた保護者が多かったです。このことから、実際に小学校で体験することで児童本人が僕はこれから小学生になるんだなっていうような自覚を持って、やはり小学校に行くような、自覚を持てるような活動をすることが、円滑な接続に大きな効果が期待できるのではないかなと思います。

先にも述べましたけれども、円滑な小学校への接続っていうのは、やはり家庭と幼稚園と小学校が、やはりどれかを改善すればいいっていうのではなく、家庭ではやはり身の回りのことが1人でできるようにならないといけないとか、これから小学校になるんだよというような自覚をさせるような姿勢がやはり必要であり、幼稚園や保育園では、小学校との交流や事前学習の機会というのを与えてくださることが必要だと思っております。

小学校では入学した後、保護者も正直1年生なので、やはり細やかな説明をしていただくと保護者も安心できる、特に不安を感じやすいことに対しての配慮が必要ではないのかなというふうに考えております。

- 最後なんですけれども、第四幼稚園では昨年度、小学校と非常に多くの交流をさせていただきました。このどれもが幼小接続に役立つものだったと感じております。現在どうやら令和8年に閉園が予定されておりまして、今後について保護者と教育委員会による話し合いが今進められております。1卒園生の者としては、このことはとても惜しいものだなというふうに感じております。今後の日野市の幼保小連携を充実させていくにあたり、第四幼稚園の活動はとても意義のあることだと感じておりますので、どのような形であるにしろ残せないものかなあというふうに考えております。ちょっと長くなって申し訳ありません。以上となります。

### 【委員長】

- ありがとうございました。
- これまで日野市が行ってきた幼小の交流に関して、保護者の皆さん方がとても大きな意義を感じていらっしゃるというご感想が多くありまして、とても印象的だったと思います。
- 先ほどのアドバイザーのお話にも通ずるところかと思えますけれども、ご意見・ご質問、その他皆さんいかがでしょうか。

### 【委員】

- アドバイザーのお話を伺っているの感想というか、私なりの思いを少し感じたところをお話させていただきます。
- まず先日5月に、アドバイザーと巡回支援指導員の先生に保育園の方に来ていただき、保育を見ていただきました。ありがとうございました。
- 私達が日々当たり前に行っていることをそのときの感想として思ったのが、私達として当たり前で生活の中でやっている、例えばその日は「英語活動」があったんですけども、部屋を移動しての英語活動がありました。そのときに4歳だったかと思うんですけど、次の英語活動に向けてちょっと準備をしている中でして、3歳児が終わるのを待って、移動を待っている時間帯だったんです。移動の準備をしている時間帯、担任は笛を鳴らすでも、何かこう寄ってくるわけでもなく、やっぱり4歳児28名を集めるために日々色々なことをしたりとか、興味を持てるようなことをして集めて落ち着かせて移動に向かうんです。
- 私達は毎日それをいろんな活動の場面とか合間でやっているんです。そこを見たアドバイザーがおっしゃったのは、活動のところではなくそういう活動の合間の子どもの移動に関する保育士の動きであるとか、その準備段階でやってることに対して、「こういうふうに行ってるんですね」とか、「子どもたちを集めるために、子どもたちをまとめるためにこういう補強してるんですね」という視点で保

育を見ていただきました。そのときに、私はあんまりそういう面でそういえば見てなかったというか、当たり前のように感じてたことが、そういうふうな見方があるんだ、って改めて客観的に保育を見ていただいて、自分たちのしていることって意味があることなんだ、と思いました。

■日々、先生たちも保育を記録していく作業を毎日やってるんですけども、よく言うのが、やっぱり私達は専門職としてプロなので、どこかやっぱり行き当たりばったりでなくて、自分たちがやってることをちゃんと保護者や外に向けて説明できなきゃいけないんだよっていう話を多々するんです。やっぱり改めて私達がどうしてそれをやってるのかっていうことはすごく大事なことなんだなということをもすごく実感した時間だったなって感じています。

■何が言いたいかというと、やはり、先ほど「チャイムで小学校は動く」というお話があったんですけど、私達が大事に思ってることって、「英語活動」そのものだったりとか、きちんと活動に参加することではなく、その子たちが今どういう気持ちでいるかとかを汲んで、今に見合った関わりをすることを知らず知らずのうちにやっぱり保育士がやっているんだっていうことをやっぱり改めて私達も意識してやらなければいけないんだな、ということをもすごく感じさせていただいた時間でした。本当に保育ってそういうことが大事なんだなっていうふうに感じました。

■あと、話が色々飛んで申し訳ないんですが、先日、うちの幼保小連携を担当している職員が、学校の公開授業に行ったときの感想です。

■まず、こういう幼保小の連携がすごく進んで、日野市やっていただいて本当にありがたい、という話がありました。一方で、「すごく怖い先生が1人いた」って言って帰ってきました。もう何だろう、卒園児がたくさんいるので、こういうとちょっとあれですけど、やっぱり先生たちも、子どもたちも、顔見ると嬉しくて、先生とかがって授業中手を振りたがるんですけど、もうその先生がこう見てるから子どもたちも手を振れない状況だったようです。だから、私達ももうスーっと部屋を出てきましたって言っていました。でも、隣のクラスの先生はすごく温かくやってたよ、とのことでした。

■やっぱり、そういう先生たちの間でもそれがいいとか悪いとかじゃなくて、きっとそうやって小学生に上がった1年生を一生懸命育てていただいている気持ちには変わりないと思うんですけども、まだまだきっと小学校の先生の中でも、きっとまだそういうことに対していろんな思いがあるのかなと思いました。

■アドバイザーの先生を始め、日野市全体でそういう小学校の先生たちが1年生のその指導を保育園幼稚園から繋げていくってことは本当に大変なことなんだなっていうことで、改めて今やってくださってることの本当に重みを感じました。本当にこれからきっと良くなっていくその途上なのであれなんですけど、すごく小学校と保育園が連携していく・幼稚園が連携していくことって、時間がかかっても大事なことなんだということも感じさせていただきました。

■長くなるんですが、もう1つなんですが、保育園はやっぱり0歳児の本当に産後の3ヶ月から本当に預かる現場ですので、本当に今0歳児も入ってまだ2ヶ月のお子さんなんかはまだまだ離乳食が始まったばかりのお子様を今お預かりしているところです。

■今日ちょうど現場とも話しをしていたんですが、やっぱりどういうことを目的にして保育しているのかなって話。大きい子特に3歳児・4歳児以上のクラスになるとやっぱり明確になりやすいんですけど、やっぱり保育園ってそういう本当に小さい年齢のお子さんをお預かりしている中で、乳児さんとか1歳・2歳児を見ている職員が、どういうことを目標にして保育していくって話をしたときに、やっぱり私達としては学校へ上がるときにはこういう子になってほしいなっていうことが、やっぱり0歳児の担任になってる先生も、どこかすごく願いがあります。

■ですので、そういう先生たちが保育をしている中で、やっぱり0歳児は、すごく身近な保育士と安心した環境を共有して生活するっていうことを一番大事に0歳児保育しています。1歳・2歳になってくると、教育の中に5領域であるとかっていうことが盛り込まれて、保育がどんどん進んでいきます。

- やっぱりこの5領域も、今大事にしている10の姿とすごく関連するところがたくさんあります。なので、やっぱり保育園で保育している私としては、やっぱり幼児でそういうことって急に始まるわけではなくて、本当に0歳児・1歳児のうちからまずは子どもたちとの信頼関係を作ること、子どもたちはまずは自己肯定感を持って自分は生まれてきてよかったんだ、自分は人に愛されてるんだっていうその安心感をまず0歳児で持つ。そうすると1歳児・2歳児で、「外に外に」っていう気持ちが向いていくっていうことを私達実感しながら日々保育してます。
- 今は架け橋期のことを話してるんですが、やっぱり今日現場と話していて、乳児期のその保育っていうのも、やっぱり保育園の子って昼間は親御さんといない時間が長いので、やっぱり私達が親代わりになって愛情を注いで、やっぱりどこか意図的にバランスよく育てていくっていうことが私達が本当に仕事ですので、やっぱり10の姿をどこか小さい頃から意識して私たち保育してるっていうところは、これからも大事にして架け橋期に繋げていきたいなという思いが、今のアドバイザーのお話を聞いていて感じたところです。
- すみません、長くなりました。以上です。

### 【委員長】

- ありがとうございます。
- 子どもが自ら動くような保育者の専門性の在り方とか、乳児期の保育が土台になるということ等についてお話いただきました。

### 【委員】

- アドバイザーとは幼保小で長い間、色々ご指導いただいて、「スタートカリキュラム」ですとか、色々教えていただいています。
- 先日も東光寺小学校で一緒に授業を見させていただいて、「スタートカリキュラム」を見に行ったんですけど、かなりしっかり授業されていました。配慮の必要なお子さんをどこの席に座らせて、どうやって先生が指導するかというところをすごく目の当たりで見せていただきました。名前読んで座りなさいっていうよりは、肩を優しく抱いて座るんだよって身振りっていうかしぐさで伝えたり、もうどうしてもときは「3回目だよ、もう座ろうね」とかって伝えたりしていました。すごく先生方も勉強されていて、すごいなと思いました。そのまま45分間も授業していたので、「すごい、いつもこんなにずっと授業しているんですか」って言ったら、「違いますよ、30分ぐらいするとちょっと飽きてくるので、ちょっと移動していたり、色々なことをするんです」ということでした。ちょっと授業参観みたいに見せていただくので今回は長い授業だったということだったんですけども、すごく先生方が暖かいなって思いました。
- また、4月の研修にも行かせていただきました。前は、「座ってて」とか、「ちゃんと背中つけて座ろうね」とかっていう先生が多かった中、「僕の得意な技はマジックなんです」、「子どもたちを集中させるのはマジックが一番なんですよ」とか、後は「手遊びします」とか、「今流行っている遊びはなんですかね」っていうような、ぎっくばらんな協議会の中で保育士とか幼稚園の先生に直接聞けるその場面を聞いて、ずいぶん先生方変わったなって印象を受けました。
- なので、やはりアドバイザーや委員長の先生がずっと培われてきて、皆さんをそのような方法で育ててくださっているこの日野市の教育っていうのは、大変素晴らしいなって、改めて今年の4月に行かせていただいて思いました。
- その他に、もう1つうちの保育園で、今日なんですけど、エールの方もいらっしゃるのでちょっと言いにくいんですが、言葉が遅くてちょっと感情の起伏が強くて、1人保育補助という形でついているんですけど、その子が相談の3回目に行きました。成長はしているんです。うちの保育園に見学に来

たときは、話せないし座れないし、それからすれば、「貸して」って言うと「貸して」、「これ貸したらお家で麦茶1杯飲もうか」とかっていう駆け引きができるぐらい、すごく成長してきているとは思えます。けれど、やっぱり集団の中でどうやってその子を育てていってあげようかっていうのが担任の悩みなんです。でも若い担任だし、でも基本は家庭だから、お母さんたちがこの保育園でこの子は楽しく過ごすことが一番だって思えば、就学先ってというのはその先に見えてくると思うから、まずはお子さんの考えを聞くのが大事だよって話をしました。

- やっぱり基本は家庭かなと思います。親御さんがどうやってそのお子さんを育てたいかっていうところに寄り添っていくのが私たち保育士だったり幼稚園の先生だったりするのかなって。その先に、教育とかが見えてくるのかなと思っています。
- まだ3歳児はスタートしたばかりです。エールの先生はいいことをおっしゃってくださいました。成長しているし、お母さんやお父さんと3年間培った愛着がもっと保育園の中で、先生を対象として培っていけばもっと伸びるんじゃないかっていうことでアドバイスもいただきました。担任には、今愛着ができていいところだから、これからそれを深めていく時期だよ、また秋になったらちょっと成長を見ていただいてお話をするのがいいよね、ってというような話を今日たまたましてきました。
- やっぱり家庭・保育園・小学校・幼稚園というような4つの関わりの中で、やっぱり子どもが育っていくのかなと、特に今日改めて思いました。以上です。

### 【委員長】

- はい、ありがとうございます。親御さんの考えを聞くことによって、親御さん自身も子育てを振り返る機会になるのかもしれないですね。ありがとうございます。

### 【委員】

- 先ほどからお話を聞く中で感じたことが、やっぱり怖い先生っておっしゃってたように、やっぱり先生たち1人1人の個性があって、価値観とか考え方がきっと違うんだろうなっていうことを感じます。
- 幼稚園の担任たちを見ていても、職員たちを見ていても、やっぱりそれぞれの価値観によって指導の仕方が変わったりとか、そこは注意しなくてもいいんじゃないかなってところで結構声を上げて注意してしまう職員もいれば、そこはちょっと子どもたちの様子見て、それからまた危険なことがない限りは見守りましょうって職員もいたりします。
- やっぱり何か価値観とか考え方をみんなで情報共有じゃないですけど、先ほどアドバイザーからの管理職の考え方・伝え方次第で、またそこが変わっていくのかなっていうことをすごく感じました。
- 私の幼稚園でも、やっぱり色々な会議、職員会議であったり、研究会をする中で先生たちの考えを聞き、それぞれの思いを伝えることで、そういう対応の仕方があるんだ、考え方があるんだっていうことを知るっていうことがやっぱり大事なかなというふうに思いました。
- やっぱり自分のやり方が一番とか、これしかないって思ってしまうと、そこで止まってしまうと思うので、そうじゃなくて、自分の園だけに限らずいろんな研修の講習会を受けたりとか、こういった会の中で話し合いを持って、それをまた下ろすことで価値観が広がるっていうか、考え方が広がるっていうことがあると思いますので、そういうことを大事にしていきたいなあとということを改めて思いました。
- あとは、やっぱり私たち、子どもたちの姿とか、その日の様子によってとか、天気によって、あと疲れ具合によって、言葉がけとか対応の仕方とか、あとは究極には、その日の活動自体も変えることがあります。やっぱりそういうことによって、子どもたちが無理なく過ごせるし、楽しく活動に参加できているなあと感じます。こういった柔軟な対応の仕方っていうのがすごく大事なんですけど、やっぱりそういう柔軟な対応をできるっていうのは、なかなか新卒の先生たちには難しいこと

なんです。で、やっぱりいろんな引き出しみたいなものがないと、それができないっていうのが現状かなあっていうことを思っております。なので経験を積んでいくことがまずは大事かなとは思っています。やっぱり日々の勉強だったり、先輩を見て、先輩の保育を見ながら感じて自分のものにしていくっていうのが大事なあとということも思いました。

- あともう1つ、先ほどのアンケートを聞いていて、やっぱり保護者の方のご意見ってすごく大事だしありがたいなあということも思いました。やっぱりそういうのを私たちに伝えていただくことで、改善できることって多いと思うので、ぜひうちの幼稚園もいろんなアンケートをとっているんですけども、それをもとにいろいろ改善すべきことはあるなあということも思いました。
- 小学校との交流とか、事前学習の機会を幼稚園に要望したいっていうこともあったんですけども、やっぱり事前学習っていうのは、例えば文字の練習であったりとか、何か座って集中して話を聞くっていうのを感じていらっしゃるのか、何かそういったところも具体的に教えていただくと改善方法に役立つのかなっていうのは思うんです。
- けれども、やっぱり強制することはうちの幼稚園ではあまりしたくないと思っています。例えば文字練習とか勉強の中では、お手紙ごっこを年長児やったりするんですけど、これまでに年少児では形集めをしてみたりとか、あと日中になったらちょっと「あ」のつく言葉遊びしようとか、「い」のつく言葉遊びしようみたいな感じで、段階を踏んで言葉への関心、興味を持たせるようなカリキュラムを組んでいるんです。それで子どもたちが、「かるた」とかをやったりして、文字に興味を示したところで、年長のお正月過ぎた頃にお手紙ごっこをちょっと取り入れて、ここで字を書いてみたいとかをしています。その前にも、絵画の裏に自分で名前を書いてみようかっていう感じで、強制ではなくてやったりもしています。やっぱり、遊びの中で興味を持ちながらやるってことが、子どもたちにとってはすごく大事で、やらされてる感がすごいあると拒否してしまうお子さんも多いんですね。なのでそこを大事にいきたいなっていうふうに思います。
- また、早めにもっと取り入れてくださいってご要望もあるんですけど、「段階を踏んでいるんですよ」ということを説明してご理解いただくようにしなくてはいけな、ということも感じました。これからのカリキュラムとか、保護者様への説明とかも考えていこうかなっていう機会にさせていただいたので、ありがたかったです。ありがとうございました。

### 【委員長】

- はい、ありがとうございます。
- 価値観を大事にしていきたいっていうお話ありましたけれども、幼保小の間わずですね。子ども感とか保育教育感、指導感をすり合わせていくっていう形ですね。
- 文字については、保育所保育指針も幼稚園教育要領でも文字への関心を高めるっていう記述はありますけれども、文字を教えるっていう記述はございません。今先生おっしゃったように、遊びの中で文字への関心を高めていくっていうことが、とても大事な次期かなというふうに思います。ありがとうございます。

### 【委員】

- 私の園の方にも、アドバイザーと巡回支援指導員の先生に参観に来ていただきました。
- アドバイザーからは、「やっぱり、こうやって子どもたちがやりたいことをして遊ぶんだよね」、「時間は緩やかに子どもの時間で流れていくんだよね」というふうにおっしゃっていただきました。巡回支援指導員の先生からもすごく学びになりましたというお言葉をいただきました。大変ありがたいなと思った次第です。
- 実際に、第四幼稚園は日野第四小学校と隣接していますので、色々な連携ができていますが、実

際に敷居がすごい低いかっていうと、そうでもなかったりするんで、できるだけ距離感を縮めていくには、やっぱり管理職同士だと私は思います。

- 小学校に訪れて、時間を少しいただいて、校長先生とお互い色々な計画を話し合ったりしています。年度末・年度初めに行って交流を進めるところがあります。
- 公立幼稚園の園児数が少ないこともありますが、全市のことを考えると、そういう学校との連携に向けた働きかけをやりたい、やっていかないと、と考えています。
- 前回、日野第一小学校の方で幼保小連携推進の話があったとき、委員長にもお越しいただきました。そのとき、ある保育園さんから、ぜひ小学校と交流したい、という話がありました。当園は園児数が全部で17人と少ないので、日野第四小学校さんと交流するときに、その私立保育園さんに、幼稚園に来てもらって、一緒に交流できるかということを経理先生と話を進めています。やりたい、やってみたい、というお気持ちを受けて、繋いでいく、という役割も果たせていくこともできたかな、というところがあります。今後もそのような役割を果たしていきたいと思います。
- それから、やはり、幼稚園同士の交流の場が正直ないと思っております。子どものこと、それから支援が必要なお子さんのこと、いろいろな環境のこと、本当に幼児教育に関して、一緒に同じ場で管理職だけでもいいですし、それから中堅、それから若手というふうな形で、いろいろな研修の在り方があると思うんですね。そんなところを探りながら、少し前に進めていければいいなというふうに思っています。以上です。

#### 【委員長】

- はい、ありがとうございます。

#### 【委員】

- 先生のお話を聞いて私が感じたことは、保育園の先生とか、幼稚園の先生方が、子どもに寄り添っているなど。子どもに近い位置にいてくださっていると感ずることが私もあります。
- 生活全体を見て、親とか大人を見て、子どもたちが自分が大きくなった姿とか、こういうふうに真似すればあれができるかなとか、そういうことをイメージできるような姿を示してくださってるな、と感ずているところです。
- 小さいお子さんの場合は、特に勉強ということではなくて、成長の1つ1つが大切である、体験を通じてというところを示してくれている。実際にできたんじゃないで、できたつもりになったということがとても大切なことだと思いつた。子どもの見本になっている、というのがすごいよいと思いつた。
- 保育園や幼稚園の先生は、子ども達のどのような姿を見たとしても、割と大らかな対応です。それは、子どもが実際にできなくても、もうちょっと成長すればできるはず、という将来を見据えているからこそ待てるのかな、と思つた。でも、プログラムに沿つたことを行わなくてはいけないと思つたので、大変なところもあると思つた。小学校1年生とか、その時の小学校の先生が何を見るかっていうときに、その小さいとき、2・3・4・5歳の発達過程を先生方が知ってるか知ってないかだけでも、結構違うかな、と聞いていて思いつた。
- また、聞いていて何か具体的なことではないんですけども、アンケート話なども含めてですけど、狙っているところが、子どもに対する支援なのか、親に対する支援なのかってところがちょっと混ざっているような気もするので、そこを考へていくとよいのでは、より具体的な課題解決につながるのでは、と考へます。
- 自分の経験の話だが、5月の学校公開について、4月にお知らせされたので、行けませんでした。就学に向けてのアナウンスがもう少し早くてもよいのでは。

また、今話し合っている素晴らしいプログラムについて、保護者に対して、早めにお知らせしてもらえたら、すごい安心できると思います。

### 【委員】

■ありがとうございます。

### 【副委員長】

■今日の議題が、幼保小の連携という部分を中心になっていましたので、今まで皆さん委員の方からも、この入学前の体験が非常に重要だというところが皆さんの一致するところかなというふうに拝聴していたところです。

■学校それぞれで、やはり体験の多い少ない部分があるのではないかなというのは感じるところであります。この理由は様々あるんでしょうけど、現場の教員たちを見ていて、その要因の1つになるかもしれないかなと思っていることは、今やはり文科省の方でも、「教員の働き方改革」ということがずっと叫ばれていてなかなか改善されない。ただ少し、時間外の労働時間は減ってきたということも発表があったところです。

■色々なことを全部教員の方にもすべて詳しくやっていこうということももちろん大切なことですから進めていかなければいけないんですが、何を大切に重点を置いてっていうところは、もしかするとそれぞれの学校の管理職によっては温度差があるかもしれません。そこでなかなか全校で統一して進まないっていうところにもなっているのかもしれない。

■またその要因の1つとして考えるのは、小学校の教員は、授業をする上で、やはりよりどころとするものとして「教科書」が1つ大きなものとしてあります。「教科書」から外れて、自ら何をすべきかを考えて、そして実践をしていくっていうことは非常に時間もかかります。また、様々な情報があればそれを参考にするというのもできるかと思うんですが、異動してきてすぐの所ですとか、経験の浅い教員にとっては、なかなかその引き出しがあまりないということもありますので、そこが1つなかなか進まないところの要因ではないかなというふうには感じるところです。

■そう考えますと、何をここで「スタートカリキュラム」でやっていくか、という情報を、わかりやすく教員の方に伝えていくにはどうしたらいいか、というところが1つキーになってくるかなっていうのは感じています。

■そこで、「架け橋期」に大切にしたい内容とか、あるいは幼稚園・保育園でどんなことをされているのか、そんなことを明らかにするための「まとめ」としての資料っていうんですかね、そういうものが提示をされてくれば、そこから取捨選択をしたりしながら、学校でどこを中心にやってくのかっていう、検討の材料にもなっていくのかな、というふうには感じています。

■今のところ、それぞれの学校で、それぞれ自分で探しながら、学校で考えながらやっていこうというような部分もありますので、それが温度差の大きな1つかなと感じます。何かそういう参考資料のようなものが出来れば、改善する余地があるかもしれないというふうには感じているところです。それを各学校、特に1年生・2年生の担任の先生中心に確認をしながら決めていくということが1つあるかもしれません。

■それからその資料などを基にして、学校で「スタートカリキュラム」の計画をやはりしていく必要があるかなというふうに思っています。おそらく1年生の担任を中心に、各学校では4月に新しい担任が決まりますので、そこでどのようにしてやっていくかということの話し合いを始める学校が多いのかもしれない。そうすると、なかなか時間も取れない中で、なんとなく発信、スタートし始めてしまうという部分もあるかもしれませんので、前年度のうちに学校としてのスタートカリキュラムを組織を作って、そこで考えていく。それがあれば4月からスタートしやすいという環境もできるかもし

れないというふうには感じています。いずれにしてもそのカリキュラムを検討するには、何かしらやはり参考とさせていただく資料があった方がやはり考えやすいかな、というふうには感じるところです。

- それから、幼児期の幼児教育の内容を教員が知るということにおいては、それら参考資料から知るということももちろんそうですし、やはり実際に小学校の教員が現場に出て幼稚園や保育園を訪れて、そこで実際に見る・確認するという作業も当然必要になってくるかなと思います。そういうこともやはり大切なんだよってということも含めて、啓発ができるようなそんな資料の内容にもなっていくと、より充実したしたものにはなるかなと感じています。
- それから、別件になるのですが、先日ある方からお電話をいただきまして、それは本校の学区内にある私立の幼稚園長の先生からお電話いただきました。その内容は、今まで本校とは連携した交流っていうのはなかったんですが、ぜひこれから始めさせていただけないでしょうかというご相談のお電話でありました。私の方も、担当者という日程でどういう内容をやってるかっていうことを確認をした上で、ぜひこちらからもお願いしますということでお話をいたしました。今本校では、近隣の4園の幼保と連携をしているところですが、そこに合わせてもう1園やっていきたいと思いますという話合いが始まったところでございます。
- 学校によって連携する、交流する学年は違うというのが現状だと思います。学校でいきますと、1年生と幼保の園児と交流するところもあれば、合わせて2年生と交流しているところもありますし、また5年生と交流すると。これは4月から1年生と6年生になるという関係。この前段階として3学期に行うという実践も行っているところですので、そのあたりをどう組み合わせるかっていうのもそれぞれの学校で今考えているところです。
- そのような例も含めて、またそのような指導を中に盛り込んでいけると、参考になるのかな。そうすると今まではこれでやっていただけで、さらに新たにという話があったときには、ここに一緒にやっていきたいと思いますというような、違うその視点で交流ができるということも、資料からは理解することができるかもしれません。そのようなことも諸々含めると、何か教員にとってもよりどころになるものがあると、非常に効果があるのではないかなというふうには感じるところです。以上です。

### 【委員長】

- ありがとうございます。
- 皆様からご意見いただきましたけれども、委員の皆様のご発言それぞれについて、ご質問・ご意見等ございましたら、お願いいたします。あるいは先ほど言い忘れたという方がいらっしゃいましたら、ぜひお願いいたします。

### 【委員】

- 先ほど委員の先生からもお話があった保護者のことです。
- ちょっとやっぱり今の保護者の方たち、この間ちょっと保護者の方と話す機会があったときに、行事の在り方に関してちょっと質問があったんですね。そのときにやっぱり親の思いっていうのがすごくあって。先ほどやっぱり家庭が大事だっていうお話があったんですけど、やっぱりこうしてほしい、ああしてほしいみたいな要望っていうのは各家庭やっぱりあるんだなっていうのが、やっぱり前よりも行事内容が少しレベルが下がったんじゃないかとか、そういう見栄えだったりとか、結果を割りと重視する親御さんの中にはいるんだなっていうことをすごく感じました。
- 自分としては、一番大切なことは、やっぱり子どもが自分からやりたいって気持ちを大事にすること。結果も大事だけれど、その過程で子どもたちによっては、すごく得意なこと、不得意なことたくさんあります。なので、色々な面でその子が自分を発揮できるようにするためには、1つのことに向かっ

てみんなが頑張ることよりも、1人1人が自分の得意なことを活かせるような活動をしていきたいんですっていう話をお母様にお話をしました。そうしたら、お母さんも「そうですよね、それすごく大事ですよね」ってすごく理解をしてくれました。

- 「架け橋期」とか、「スタートカリキュラム」の話が進むと、やっぱり保護者の思いみたいなものもしっかり連動していかなければいけないと思いました。今は情報社会なので、学校に上がるためにこういうことが必要みたいな方もたくさん出たりとか、インターネットで学校に行くためにどんなことを頑張るかみたいなことって保護者の方もすごく情報収集していると思うんです。
- やっぱり日野市がこういう取り組みをしていることであるとか、「小学校でこういうことが大事だ」ということを、私たちは保育園で保護者に話しています。ですので、保育園では小さい頃からこういうことを積み重ねていきたいんだよ、ということ、保護者の皆さんにも理解してもらうことで、初めてすごく成り立つことなのかなと思います。
- 例えば親としては、小学校に行ったらちゃんと座れてなきゃいけないのかなとか、文字書けてないといけないのかなとかっていう思いがある気持ちってのはすごくわかるんです。しかし、そうではなくって、アドバイザーの先生も先ほどおっしゃっておられましたけど、たくさん遊んできて、たくさんそういうことを経験する中でいろんなことを学んで欲しいっていうことが、本当に何より大事にして私たちも保育しているんだってことを発信することって大事だと思います。
- 小学校もそれを求めているよっていうことを伝えられる、私達もそういう発信をしていかなければいけないのかなということは、家庭と保育、小学校、幼稚園の連携の中ではすごく大事なことになって、さっき委員の先生の話聞いていて思いました。
- これからそういうことを保護者にもきちんと話せるように進んでいくといいなっていうことを感じました。以上です。

### 【委員長】

- ありがとうございます。保育の中で何を大事にしているのかをきちんと発信していきたいというふうなお話でした。いかがでしょう、委員の皆様。

### 【委員】

- 先ほど、委員の先生も情報発信して保護者と連携をとっていくというようなお話いただきました。
- ぜひ、幼稚園・保育園の皆さんと保護者もぜひ巻き込んでいただいて、みんなで子どもをどうしようかっていうことをやっていきたいというふうに僕はいち保護者としてそのように感じております。
- やっぱり、その保護者にまで情報が届くことってというのが、例えば今日野市でこのような検討委員会をやっていて、子どもの幼保小接続についてどのようなことをしようかっていうのを考えているんだってことを知っている保護者っていうのも、おそらくもう本当に1割は絶対いないと思っております。
- それで、子どもを、例えば幼稚園から小学校に行くのに当たって、やはりその家庭の他に地域が重要である、保護者も当事者であるっていうような意識をぜひ。家庭への問いかけはどうしても保育園の先生であったり幼稚園の先生であったりが主催となってやっていただかなければならないことなのかなというふうに思います。
- ぜひお子さんに小学校になるんだよっていうようなことをお話してください、とか、そういう形で結構ですので、ぜひ家庭を大いに巻き込んでいただいて、子どもたちが円滑に、安心して小学校生活迎えられるようにしていただけたらありがたいなと思っております。以上です。

### 【委員長】

■はい、ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

### 【委員】

■保護者様のお話の中で、個別支援が必要なお子さんのお母様の話になります。

■やっぱり自分のお子様の今の発達を理解したいけれども、ちょっとそこまで理解したくないっていうか、うちの子はもう少しできるはずっていうすごい強い気持ちを持たれている方がいらっしゃいます。

■エールに行ったりとか、就学に向けていろいろ就学相談も受けて、すごく熱心なお母様ではあるんですけども、やっぱり3歳児のときに、多分まだ自我が芽生えてないときに、担任の声かけによってちゃんと行動できていたとか、座っていられたっていうことがあって、4歳児になってうちの園に転園して来たんですけども、これでやっぱり自我が芽生えてきて、こうしたい、ああしたい、好奇心も出てきて動き回るようになって、どうして今までできていたのにできないんですかっていうことがありました。

■やっぱり私達の間から見ても、やっぱり色々な興味が出てきて、成長段階で今はそういう時期なので、色々やってみたい気持ちから動いているんだと思いますよ、っていうお話もしてはいます。ですが、できていたものができなくなる、ということが、すごくお母様にとっては不安な要因であるみたいでした。やっぱり小学校に向けてもきちんと座ってられるように、幼稚園で指導してくださいという形でお話されてことがありました。また、エールに行っても。エールでは体をたくさん使っているような刺激から対応できるようになるOTを勧められたそうなんですけど、お母様はOTは以前利用していたみたいなんですけど、遊んでいるようにしか見えないって仰っていました。あれは指導じゃなくて遊びだっと思ってらるみたいなんです。

■私たちの見解からすると、そこから色々な刺激がいった成長が見られるのになって思うんです。ですが、お母様の希望されたのはSTで。座ってやっぱりいられないんですよ。色々なことに気が行ってしまってうろうろしてしまう。それを制止できなかつたり、指導がうまくできないのはその指導者に問題があるんじゃないかっていうお話をされました。プロなんだからそれを指導するのがお仕事ですよっていうお考えでいらっしゃって。

■そのお母様もすごく苦労されて日々不安でいるんだなということはわかるんです。けれども、やはりそのお子様にとっての対応とか、指導の仕方が、何が最善なのかっていうことを、すごくこちらがたくさん発信していかなくちゃいけない。その中ではお母様の気持ちに寄り添いながら言葉を選んだりとかしていかなくちゃいけないな、と思いつつ、ただお子さんのことを一番に考えると、お母様にもうちよっつとご理解いただけるといいなあっていうことをすごく思っています。

■ただ、1人で考えていると、やっぱり不安になることが多いと思うので、同じようになっていうと個人差はあるとは思いますが、同じような経験されてるとか、何かその利用したお母様からお話を聞く機会があるとか、何かそういったお母様の安心できるような何かそういう機会が作れたらいいなあっていうことがすごく感じたことがありました。ちょっと何かそれも日野市の中で少し難しいとは思いますが、機会ができるといいのかなということを思いました。

### 【委員長】

■ありがとうございます。今の話についてはいかがでしょうか。

### 【委員】

■今、委員の先生からお話があったように、これからエールさんの方でいろいろと就学の相談とかが昔に比べて早くなってきたものもありますので、これからが一番保護者の方が、悩む、時には落ち込むという、そういう時期にこれから入ってくる方がいらっしゃるかなと思います。

- 私の方でもそのお母さんの気持ちを受けながら、できるだけ気持ちに寄り添い、だけど一番その子にとってこの先を見据えたときにどうしていったらいいかということ、やはりしっかりと一緒に考えて、私は私なりの支援側のきちんとした考えをお伝えしていくことはすごく大事なことかなっていうふうには思っております。
- 1つちょっとお話しさせていただきたいことが、「特別支援」に関するところであります。実際に日野の市立幼稚園では支援が必要な子を多くお預かりしています。昨年度の状況として、「就学支援シート」と「かしのきシート」のシート数なんですけれども、第二幼稚園は12名の年長児に対して7名が「かしのきシート」と「就学支援シート」のどちらかを書いております。私の第四幼稚園では、14名中5名の子さん、それから第七幼稚園では、21名の園児に対して9名のお子さんが令和4年度にそれぞれ「就学支援シート」をそれだけの枚数を書いて。エールさん通じて小学校にお渡しをしているというところではあります。
- 平山小学校では、例えば第二幼稚園とかに「就学支援シート」受け取りましたということで。1年生の担任の先生と綿密なやりとりとか話し合いができていっているところがあります。しかし、第四幼稚園と第七幼稚園では受け取ったかどうかさえも連絡は正直いただいていないところがあります。入学してからもまだまだ朝お母さんが送ってらしたりとか、昇降口の前で何人かお母さんたちがやっぱりお子さんが学校に入っていくまで見届けているというような、そういう状況も今現在でも隣の小学校でも見られています。
- やっぱり入学したお子さん、支援が必要な子もそうなんですけど、どこかでそういうお子さんの今の様子とか、そういうものを実際に顔を見合わせてお話をさせていただきたいということがなかなか現状としてできにくいということもあります。そのため、先ほどお話あった「働き方改革」という言葉なんかもいつも頭の中にありますので、あまり時間を取られたら申し訳ないとかいろいろあるんですが、やはりそういうことも今後やっぱりどこの保育園さんも幼稚園さんもやっぱり気になるころだと思いますので、小学校さんの方でちょっとその辺も考えていただけるとありがたいと思います。以上です。

#### 【委員長】

- はい、ありがとうございます。この点に関しては。

#### 【副委員長】

- 3学期ですね、次年度に向けてということで、様々な幼稚園・保育園から入学をしてきますので、それぞれのお子さんが所属する幼稚園・保育園では、平山小の場合は基本そちらに伺ってその場で職員の方からお話を伺ったり、あるいは子どもの様子を直接見させていただいたりという機会をいただいています。
- その中で、子どもたちの実態というものを、学校として新入生の全体で捉えた上で、どのように支援をしていくかっていうことを検討しています。それが基本はどの学校も行っていることは多いとは思いますが、必ず全て行ってるかどうかまではちょっと定かではないところではあります。
- また、遠方から入学してくるようなお子さんの情報が入ったときには、お電話でお話を伺ったりというようなこともしているところです。

#### 【委員長】

- ありがとうございます。いかがでしょうか。

#### 【委員】

- 「就学支援シート」ですが、職員がかなり時間をかけてその子が不利にならないように、でもここだけは伝えたいということを書いております。なので、ぜひ先生が読んでいただいているとは思うんです。
- けれども、以前やっぱり出していたけど、この子どもなんですかって春になってお電話がきたりします。就学支援シート出していて、ちょっと個性の豊かなお子さんなんですよっていうお話をしながらお伝えしているときに、実は「就学支援シート」出していたんですかっていうようなところがあったりします。
- 学校によっては、4月当初、担任の先生が変わられて読むのが大変だったりとか思うんですけれど、ぜひ見ましたよってというような連絡をいただいたり、後はこの前、東光寺小さんに訪問させていただいたんですけど、その時に担任の先生から、このお子さんこんなによく育っていますとか、ここちょっと心配なんですよとかっていう直接お話をする場面も今回いただけました。そういうところはありがたいなと思うんです。
- けれど、やはり連携っていうところでは、人と人の繋がりってというのが一番大事なのかなと思いつつながら、ぜひ読んでいただいたらメールとかでもいいので一言返していただけると、やっぱり担任、保育もあるんですけれど書類を書かなくちゃいけなくて、午後からちょっと受けて書いたりとか、いろいろの園も工夫されているとは思うんですけれども、そういうところがありますのでぜひ活用していただきたいなって思っております。よろしく願いいたします。

#### 【委員長】

- ありがとうございます。
- この特別な配慮を要する子どもの支援については、また今後意見交換の機会があると思いますので、よろしく願いいたします。
- それではいかがでしょう、アドバイザーへのご質問・ご感想でも結構ですし、委員の皆様のご発言についてでも結構ですが、よろしいでしょうか。

#### 【委員】

- 幼保小の架け橋プランって書いてあって、2年生ぐらいまでを指しますということなんですけど、これは「スタートカリキュラム」の延長みたいな形で考えていいんでしょうかね。
- ちょっとその辺がどんなことをプログラミングしていくのかがちょっと私がよくわかってない気がするの、もう1度教えていただけるとありがたいなと思います。

#### 【委員長】

- アドバイザーへのご質問ということですか。

#### 【委員】

- 皆さん、知ってる方がいらっしゃったら。

#### 【委員長】

- このレジュメの中の意味ですか？6ページですかね、資料3の6ページ。
- それではすみません、アドバイザー。

#### 【アドバイザー】

- それではすみません、十分な資料も用意できなかったんですけども、先ほどお話ししたように令和4

年度から研究を募集して取り組んでいるところがあり、日野の方もまた違う形で取り組んでいるところですよ。

- 文科省の方から示されているのは、幼稚園や保育園と小学校が、年長さんと1年生を中心にした、とそこまでのお話は先ほどもありました。
- うちの保育園・幼稚園では0歳のこの段階の5歳まで、こういうふうにそれぞれの年目標で教育して、保育をしています。そして、その子はそれを受けて、1年生から6年生までこんなふうに子どもたちを育てていきます。というものをプログラムとして作って、いこうというのが最終目標にあります。まだそこは全国どこもまだできてない状態です。
- それが先ほどの副委員長の方からあったように資料として提供できれば、それぞれの園とそれぞれの学校が作っていけるようになるんじゃないかな、と思います。ただし、先ほども話があったように、小学校1校と、5つぐらいの園との連携をしているところが、小学校が5枚作らなきゃいけないのになってなると、またそれはそれぞれ大変なことになると思います。先行でそれぞれ研究しているところを参考にしながらまたお示しできるんじゃないかな、と思います。
- ただ、今までバラバラに作った幼稚園や保育園は10の姿でどこへ持って行こうかな、どこの学校、どこの1年生・2年生・3年生に持っていくのか、公立ですからどこもほぼ同じなんですけれども、小学校の方もそれぞれ同じ内容で進めてきたけれども方法が違う幼稚園・保育園と、どういうふうに繋いでいくのかっていうのは、やはり話し合っ、2月だとか1月だとか来年こういうふうに進めていきましょうね、うちはこういうふうにしてきたからねっていう話し合いが持たれば、それぞれ1年の先生も年長の先生も今出てきたいろいろな課題は解決できるんじゃないかな、そういう会議を持ってプログラムを作っていくようにしましょうというのが今示されているところです。
- また具体的に少しずつ資料を提供しながら進めていければなというふうに考えています。以上です。

#### 【委員長】

- はい、ありがとうございます。

#### 【アドバイザー】

- 間違っていないですよ。

#### 【委員長】

- はい、もちろんです。
- アドバイザーがシンポジストとしてご登壇いただいている資料が後ろから2枚目のところに顔写真付きでございます。「幼児教育シンポジウム」という資料がございしますが、その中で架け橋プログラムについても少し説明が入っておりまして、実際には各園・地域の創意工夫を活かして作っていきましょうということで、各地で作られているところっていうことですね。
- ただですね。「架け橋プログラム」という新しい名前になっていますけれども、他の東京都の品川区とかいうところで、幼保小の連携のプログラムとか、あるいはカリキュラムの接続等は工夫されて全国いろいろなところで行われている、作られてきている。それを土台にして、全国的にも架け橋プログラム作っていきましょう開発していきましょうという、そういうお話ではないかなというふうに思います。

## (5) その他

- 一通り発言が終わりました。第2回についてはそろそろ閉会の時間となりますので、ここまでといたしまして、第3回目ですけれども、この検討委員会のもう1つの大きなテーマでもございます、特別な配慮を要する子どもへの支援ですね、これについて本日と同様に基調講演も交えながら、意見交換などを進めていきたいと思っております。
- それでは本日は閉会に移りたいと思っておりますが、最後に事務局から事務連絡があればお願いいたします。

### 【事務局】

(事務局より次回日程の案内)

### 【委員長】

- ありがとうございます。他にはよろしいでしょうか。
- それでは以上をもちまして、本日の会議を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。